【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成26年1月9日(2014.1.9)

【公表番号】特表2013-514080(P2013-514080A)
【公表日】平成25年4月25日(2013.4.25)
【年通号数】公開・登録公報2013-020
【出願番号】特願2012-544420(P2012-544420)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｎ　15/09　(2006.01)
Ｃ１２Ｑ　1/04　(2006.01)
Ｃ１２Ｑ　1/68　(2006.01)
Ａ０１Ｈ　1/00　(2006.01)
Ａ０１Ｈ　5/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　15/00　Ａ
Ｃ１２Ｑ　1/04
Ｃ１２Ｑ　1/68　Ａ
Ａ０１Ｈ　1/00　Ｚ
Ａ０１Ｈ　5/00　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成25年11月13日(2013.11.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
生物の特徴に関連する発現された核酸配列の特定、および任意の単離のための方法であって、
ａ）前記特徴の形質Ａを有する前記生物の少なくとも２つのメンバーを準備する工程であって、形質Ａを有する前記メンバーは、形質Ｂを有する前記生物の同質遺伝子的なメンバー（複数可）に由来し、好ましくは独立に由来し、かつ形質Ａおよび形質Ｂは異なる工程と、
ｂ）形質Ａを有する工程ａ）の前記メンバーの各々からｃＤＮＡを得て、形質Ａを有する前記メンバーから得られた個々のｃＤＮＡの、少なくとも一部分、好ましくは各々のヌクレオチド配列を決定する工程と、
ｃ）形質Ａを有する他のメンバーの対応するｃＤＮＡとの比較によって、形質Ａを有するメンバーの各々の個々のｃＤＮＡの中の一塩基多型位置を決定する工程と、
ｄ）形質Ａを有する前記メンバーの少なくとも２つ、好ましくは形質Ａを有する前記メンバーのすべて、が少なくとも１つの一塩基多型を含有する個々のｃＤＮＡを特定する工程であって、好ましくはこれらの一塩基多型は、前記形質Ａを有する少なくとも２つの、好ましくはすべてのメンバーについてのｃＤＮＡの中で異なる位置にある工程と、
ｅ）任意に、工程ｄ）で特定されたｃＤＮＡの各々について、それが、生物の特徴に関連することを検証する工程と
を含み、
ここで、前記生物はヒトではない、ことを特徴とする方法。
【請求項２】

形質Ａを有する前記生物の前記メンバーは前記形質Ｂを有する前記生物のメンバーの変異生成によって得られたものであり、形質Ｂを有する前記メンバーは変異生成処理の前には同質遺伝子的であった、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記変異生成の方法は点変異を誘導する、請求項２に記載の方法。
【請求項４】
変異生成は、非生物学的変異誘発因子の使用によって実施される、請求項２または請求項３に記載の方法。
【請求項５】
前記生物は、植物、好ましくはトマト、コショウ、ナス、レタス、ニンジン、タマネギ、ニラ、チコリー、ダイコン、パセリ、ホウレンソウ、メロン、キュウリからなる群から選択される作物植物である、請求項１から請求項４のいずれか１項に記載の方法。
【請求項６】
前記生物が植物であり、かつ工程（ａ）に先立って、劣性の形質Ａをコードする対立遺伝子および優性の形質Ｂをコードする第２の対立遺伝子についてヘテロ接合であるＦ１ハイブリッド集団が作成され、かつ前記Ｆ１ハイブリッド集団は突然変異を誘発され、かつ前記変異生成の後に前記Ｆ１集団から、形質Ａを有するメンバーが選択される、請求項１から請求項５のいずれか１項に記載の方法。